

平成23年度  
**博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要**

[採択時公表]

機関名	京都大学	機関番号	14301
1. 全体責任者 (学長)	(ふりがな) まつもと ひろし 氏名・職名 松本 紘 ・ (京都大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) あわじ としゆき 氏名・職名 淡路 敏之 ・ (京都大学理事(教育担当)・副学長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) かわい しゅういち 氏名・職名 川井 秀一 ・ (京都大学生存圏研究所教授・副理事)		
4. 申請類型	A <オールラウンド型>		
5.	プログラム名称	京都大学大学院思修館	
	英語名称	Graduate School of World Leaders, Kyoto University	
	副題	社会的課題解決のための現地実践型リーダー育成ワークベンチ	
6. 授与する博士学位分野・名称	京都大学博士(総合学術)、(英語名称)Ph.D.		
7. 主要分科	(① ) (② ) (③ )	※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入	
	本学の全研究科に係る分科が対象		
8. 主要細目	(① ) (② ) (③ )	※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入	
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	文学研究科思想文化学専攻、教育学研究科教育科学専攻、法学研究科法政理論専攻、経済学研究科経済学専攻、理学研究科数学・数理解析専攻、生物科学専攻、地球惑星科学専攻、医学研究科医学専攻、社会健康医学系専攻、薬学研究科薬科学専攻、工学研究科マイクロエンジニアリング専攻、電子工学専攻、高分子化学専攻、合成・生物化学専攻、農学研究科森林科学専攻、応用生命科学専攻、生命科学研究科高次生命科学専攻、経営管理教育部経営管理専攻、再生医科学研究所、生存圏研究所、経済研究所、こころの未来研究センターをはじめ、担当者所属以外の研究科専攻等も対象		
10. 共同教育課程を構想している場合の共同実施機関名			
なし			
11. 連合大学院として参画または構想する場合の共同実施機関名			
なし			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			
なし			

(機関名: 京都大学 申請類型: オールラウンド型 プログラム名称: 京都大学大学院思修館)

15. プログラム担当者

計 30名

※他の大学等と連携した取組(共同申請を含む)の場合:申請(基幹)大学に所属するプログラム担当者の割合 [ 80.0 % ]

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成24年度における役割)
(プログラム責任者) 淡路 敏之	アヅ トシキ		理事・副学長(教育担当)	海洋物理・気候科学 理学博士	プログラム責任者として学位プログラムの全体運営を遂行し、責任を持つ。
(プログラムコーディネーター) 川井 秀一	カワイ シュウイチ		副理事・生存圏研究所(農学研究科・森林科学専攻)・教授	農学、森林学 農学博士	プログラムコーディネーターとして全体調整し専任教員として学生指導等を行う。
大嵐 幸一郎	オシマ コウイチロウ		副理事・環境安全保健機構長・特任教授	有機反応化学 工学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、コーディネーターの補佐役となる。
小寺 秀俊	コテラ ヒデトシ		副理事・工学研究科・マイクロエンジニアリング専攻・教授	マイクロシステム 博士(工学)	プログラム担当者として、学生指導及びカリキュラム開発等の全体運用を行う。
氣多 雅子	キタ マコ		文学研究科・思想文化学専攻・教授	宗教哲学 博士(文学)	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
鈴木 晶子	スズキ ショウコ		教育学研究科・教育科学専攻・教授	教育哲学・思想史 文学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
洲崎 博史	スザキ ヒロシ		法学研究科・法政理論専攻・教授	商法・保険法 法学修士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
森脇 淳	モリワキ アツシ		理学研究科・数学・数理解析専攻・教授	代数幾何学 理学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
西村 いくこ	ニシムラ イクコ		理学研究科・生物科学専攻・教授	植物分子細胞生物学 理学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
余田 成男	ヨシダ シゲオ		理学研究科・地球惑星科学専攻・教授	気象学 理学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
三嶋 理晃	ミシマ ミチキ		医学研究科医学専攻・教授・附属病院長	呼吸器内科学 医学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
稲垣 暢也	イナガキ ノブヤ		医学研究科医学専攻・教授・附属副病院長	糖尿病・栄養内科学 医学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
福山 秀直	フクヤマ ヒデナオ		医学研究科附属脳機能総合研究センター・教授	脳機能画像学 医学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
川上 浩司	カガミ コウジ		医学研究科・社会健康医学系専攻・教授	薬剤疫学 医学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
佐治 英郎	サツ ヒデオ		薬学研究科・薬科学専攻・教授	病態機能分析学 薬学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
竹本 佳司	タケモト ヨシジ		薬学研究科・薬科学専攻・教授	有機合成化学 薬学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
北野 正雄	キタノ マサオ		工学研究科・電子工学専攻・教授	電磁波工学 工学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
杉野目 道紀	スギノメ ミチノリ		工学研究科・合成・生物化学専攻・教授	有機合成化学 博士(工学)	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
阪井 康能	サカイ ヤスシ		農学研究科・応用生命科学専攻・教授	応用微生物学 農学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
垣塚 彰	カキヅカ アキラ		生命科学研究科・高次生命科学専攻・教授	分子医学 医学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究科内の調整役を担当する。
徳賀 芳弘	トクガ ヨシヒロ		経営管理研究部・教育部経営管理専攻・教授	国際会計 博士(経済学)	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究所内の調整役を担当する。
岩田 博夫	イワタ ヒロオ		再生医科学研究所(工学研究科高分子化学専攻)・教授	バイオマテリアル 工学博士	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究所内の調整役を担当する。
溝端 左登史	ミゾハタ サトシ		経済研究所・経済制度研究部門(経済学研究科・経済学専攻)・教授	比較経済システム論 博士(経済学)	プログラム担当者として学生指導等を行い、研究所内の調整役を担当する。
吉川 左紀子	ヨシカワ サキコ		こころの未来研究センター(教育学研究科・教育科学専攻)・教授	認知心理学 博士(教育学)	プログラム担当者として学生指導等を行い、センター内の調整役を担当する。
以下、官界、産業界の担当者					
堀場 雅夫	ホリハ マサオ		株式会社堀場製作所・最高顧問	経営哲学 医学博士	プログラム担当者として学生指導、熟識及び実践教育の実施・調整等を行う。
望月 晴文	モチヅキ ハルフミ		経済産業省・顧問	経済産業政策 法学士	プログラム担当者として学生指導、熟識及び実践教育の実施・調整等を行う。
有本 建男	アリモト タケオ		独立行政法人科学技術振興機構・社会技術研究開発センター長	科学技術政策 理学修士	プログラム担当者として学生指導、熟識及び実践教育の実施・調整等を行う。
森 雅彦	モリ マサヒコ		株式会社森精機製作所・社長	精密工学 工学博士	プログラム担当者として学生指導、熟識及び実践教育の実施・調整等を行う。
福島 伸一	フクシマ シンイチ		株式会社関西国際空港・社長	人的資源論 法学士	プログラム担当者として学生指導、熟識及び実践教育の実施・調整等を行う。
小寺 清	コテラ キヨシ		独立行政法人日本国際協力機構・理事	経済開発 経済学修士	プログラム担当者として学生指導、熟識及び実践教育の実施・調整等を行う。

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

本事業の主旨(博士課程教育リーディングプログラムの事業スキームより抜粋)

日本が復興、成長し、世界の中で存在感を保ち続けるためには、今日の危機と人類社会の課題克服を先導し、持続可能で活力ある新たな社会システムの構築にリーダーシップを発揮する人材が必要



そのようなリーダー人材育成のあり方を突き詰めた結果、3つの根本的な問題意識に行き着いた。

- 学生と教員双方の人間性が深く作用し合う「顔の見える全人格的な教育体制」こそが本質
- 今求められるのは社会の現場において他者と協働する課題解決のための実践
- 真のグローバル化は、国際標準の知識と智慧をもち、場所を選ばない



これを受けての本プログラムの考え方(育成したい人材像)

社会的課題解決のために今求められている人材は、高い使命感・倫理観を有するグローバルリーダーとしての責任を持ち、種々のプレッシャーに耐え、広い知識と深い専門性を両立させた柔軟性ある思考で既存の学問や課題領域を束ねることができ、かつ国内外での豊富な実践教育を通じて、「現場」での的確な判断力・行動力を備えたリーダーたる人材である。



分野を問わずフィールドワークを得意とし世界的な研究成果を数多く産んできた総合大学

このような京都大学の強みを活かした独自の育成手法(抜粋)

- 国内外のトップ機関におけるサービスマスター型の実地実践教育を通じた世界観の醸成と人間力の強化
- 全員が教員と共に日常生活をともにし、精神面・意識面からの成長を実現するための学寮制
- 相談役だけでなく責任を持って担当学生を育成・評価する後見人としてのメンター制度
- 産業界、行政、国際機関からのリーダーを講師に招く学寮制度を活かした「熟議」の開催
- 幅広い知識の獲得を目指した総合学術基盤講義と国際機関等と連携による実践力獲得のための海外実践教育など、学生の問題意識に沿ったテラーメイド型教育制度
- 2年次と3年次修了時にそれぞれ専門研究と知識に関する学位論文予備審査及び進学審査を実施し、合格者のみを“特任研究員(仮称)”として、国内外の実地実践教育(武者修行)に派遣
- 4年次は一年間にわたる海外での武者修行に従事することで、知識や研究で培った能力を総合して現場での経験を積む。
- 最終年度(5年次)は、学生自ら社会の中で多様な行動を起こすプロジェクトベースラーニング
- 学位審査: 修了要件を満たし最終審査を経た者に学位(総合学術)を授与するほか、総長、産業界、行政関係の三者からなる認定書を付与する。これにより、企業や行政機関の博士人材起用を促す。



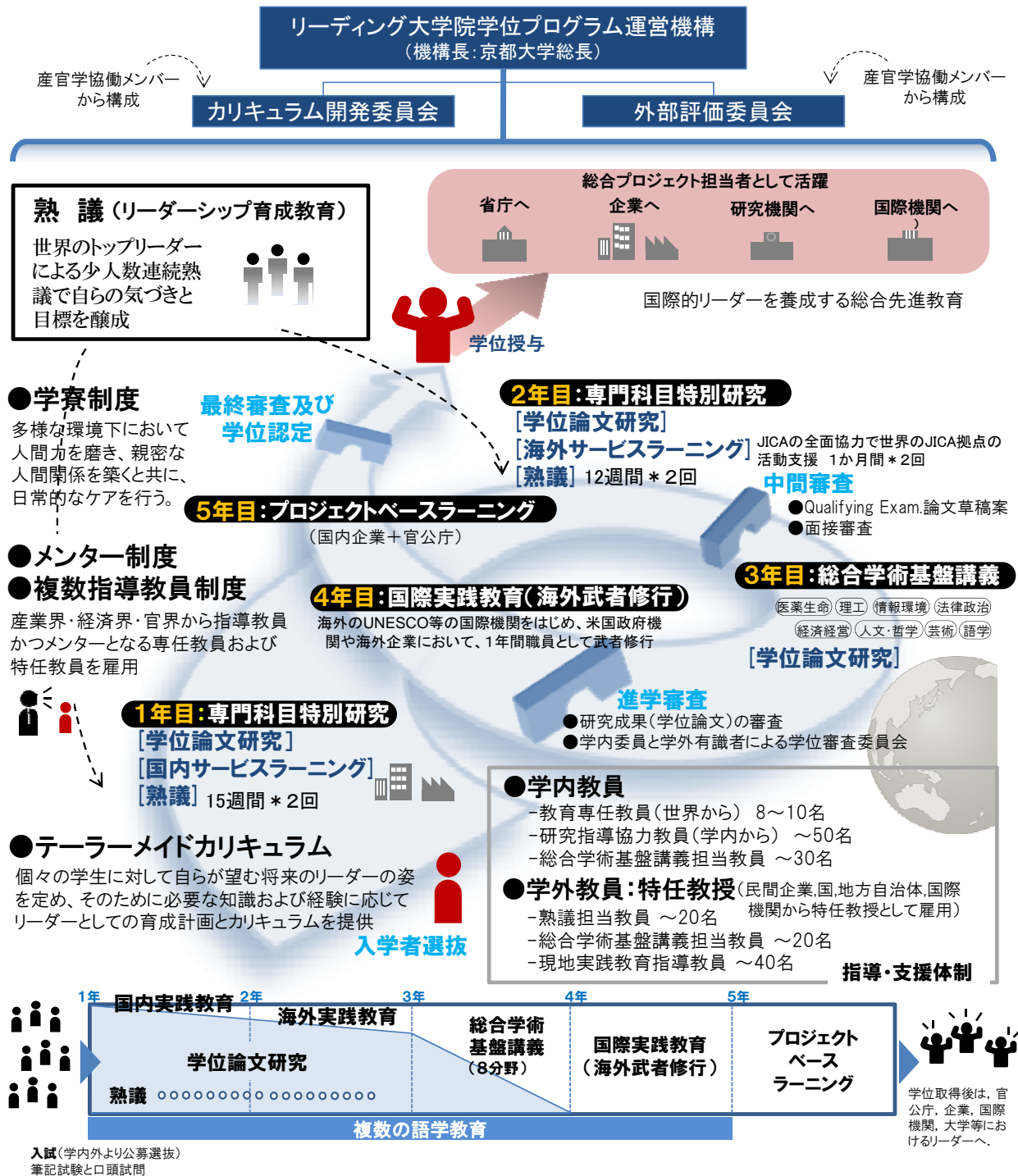
その手法を達成するための組織体制

- 運営組織:リーディング大学院学位プログラム運営機構を設置し、本プログラムをはじめ、学内の複合領域型リーディングプログラムを大学として一括管理運営
- 教員体制:適切な教員を学内外から集めるための組織と人事関係規則を制定。各界トップを経験し、人格・識見に優れた指導者を産業界、官界、国際機関から専任教員あるいは学外講師(特任教員)として招へい。学内からは専任教員の他、兼任教員及び総合学術基盤講義担当教員の措置を整備
- プログラム評価制度:国内外のトップリーダーからなる外部評価委員会及びアドバイザリーボードの設置。成果報告会(フォーラム)を開催し、一般市民を対象にパブリックコメントによる評価を実施。修了時及び5年、10年経過後に、修了生をはじめ、上司や所属長を対象にアンケートを実施し、どのような人材として評価されているかを調査
- 新設大学院“思修館”の設置。本プログラムの受け皿として平成25年度設置に向け準備中

## 学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

### 京都大学大学院“思修館” ～社会的課題解決のための現地実践型リーダー育成ワークベンチ～



機 関 名	京都大学
プログラム名称	京都大学大学院思修館
<p>〔採択理由〕</p> <p>教育研究実績・資源については、文理とも国際的に高い学術レベルを保ち、国外からの留学生も多く、優れた国際性を有している。21世紀 COE プログラム、グローバル COE プログラム及び世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）等、大学院教育研究に係る多数の実績は、本プログラムを実施するに相応しい教育研究基盤を備えていると評価できる。</p> <p>人材養成面については、国際社会におけるリーダーを養成するためのカリキュラム、海外の国際機関、企業等における実践教育、プロジェクトベースラーニングなどが整備されている。また、「思修館」（学寮）制度についても、リーダーの重要な要素である人格の涵養に高い効果をあげることが期待される。</p> <p>キャリアパスについては、国内外の産官学が協調してプログラムを運営し、国際社会情勢の変化にも対応できる体制を構築していることは評価できる。</p>	